

長浜曳山祭囃子保存会

代表者	辻 喜八郎
所在地	滋賀県長浜市
設立年月日	1971年
URL	http://syagiri.d-j.jp/

【設立趣旨】

長浜曳山祭囃子保存会は古来より伝わる囃子を保存・伝承することを目的として結成されました。囃子とは、長浜曳山祭りで行われる芸能のうちの一つで、篠笛・太鼓・締太鼓・摺り鉦を用いて演奏されます。囃子の伝承は口伝えで行われていたため伝承が難しく、危機感を共有した囃子方が中心となって、伝統の継承及び後継者の育成を目指し、同保存会の結成に努めました。

現在は全部で12の山組と1団体により構成しており、曳山を持つ中心市街地の町で構成される「山組」地域および地域外の若衆から小中学生を対象として講習を広めています。

【沿革】

第二次世界大戦後、職業形態の変化等により近隣地域の農家などからの曳山祭りへの参加者が少なくなったこと、また山組の演奏者の高齢化により、口伝えによる後継者育成が困難となっていました。これらに危機感を覚えた山組有志の囃子方は、1971年に「長浜曳山祭囃子保存会」を結成しました。同保存会では、囃子を簡単かつ確実に覚えられるよう、曲の五線譜化が進められ、1981年には口伝えだったすべての曲が五線譜化されました。

また、もともと山組を中心とする大人たちが担い手だった囃子方ですが、大人による継承が難しくなった1970年代からは、小中学生の子供を募集して教えることを始めました。これは、山組内に住む子供たちへの祭りへの参加の機会を増やし、祭り自体への興味も高まってきました。

現在では、長浜曳山祭の12の山組と長浜豊国神社の恵比寿（えびす）囃子の会員を併せて、子供約120名、大人約60名となり、活動を拡大させています。

【活動目的】

曳山祭りにおける囃子の保存・伝承及び後継者の育成、またそれぞれの山組に伝わる独自の曲の調査保存を目的としています。囃子の伝承は口伝えで行われているため習得が難しく、同保存会はず、存在する囃子の曲をすべて五線譜化するという目指しました。また、継承の対象も大人だけではなく、子供にも広げることにより、後継者育成に励んでいます。

【活動内容】

●囃子の曲の五線譜化と普及

口伝えのため伝承が困難であった囃子の曲を、すべて五線譜化し、簡単かつ確実に習えるようにしました。それまでは1対1で習っても早くも1年半から2年かかると言われた上に、正しく演奏できる人が少なくなっていたため、五線譜化は囃子方育成に大きく貢献したといえます。

また、囃子の曲をテープやCDに収録し、教材や普及用として配布、頒布する活動も行っています。

●囃子練習会

地域の子供たちを中心とし、週1回から隔週で各山組において囃子の練習会を行っています。曳山祭りの時期だけではなく、1年を通して行っているので今では囃子が日常の一部となっています。「子供は大人よりも覚えが早い」ことや、「子供が自分の友達をつれてくる」ことなどから、担い手が大人だけではなく子供にも広がったことにより、継承者育成が効果的に行われるようになりました。また、子供から大人までが一緒に練習するため、世代間の交流と伝統文化の継承が図れる場となっています。

●曳山祭り以外の催しへの参加

同保存会は曳山祭り以外の祭礼や、イベントにも出演し、囃子の普及に励んでいます。これらを通して徐々に囃子の認知度も高まり、参加したいという意識を醸成したり、伝統の継承及び後継者育成を試みています。



図1 曳山祭り以外の催しへの参加①
(長浜曳山祭囃子保存会提供)



図2 曳山祭り以外の催しへの参加②
(長浜曳山祭囃子保存会提供)

【活動上の課題と今後の展望】

曳山祭りは、曳山を持つ地域の人々が担う祭りですが、現在中心市街地は少子高齢化の進行と定住人口の減少が進んでおり、そのため、祭りをどのように継続していくかが近い将来の課題となります。このような状況においては、市街地のみならず、長浜市全域の広いエリアで祭りを支えていくことが必要であると考えています。そのためには、これまで祭りに関わっていなかった人にも曳山祭りや囃子に関心を持ってもらう必要があるため、今度どのように広い地域から参加者を増やすか等を検討していく予定です。